[香川県]

か |ナ禍における「表現するものたちの生きる場」と「地 なみ芸術祭2020 AYAGAW

かがわ・山なみ芸術祭2020 AYAGAWA 実行委員長・香川大学造形メディアデザインコース教授 倉石

か が わ・山なみ芸術祭につい

機的に融合させ、芸術文化の力で「地域の可 づくり学校が主催する芸術祭である。 綾川町に本拠を置くNPO法人かがわ・もの ティストと住民が芸術祭を共同で企画運営 地域の特徴とアーティストの独創性を有 がわ・ 香川県綾歌



川上神社狛犬奉納、宮司さん総代さん達

供、探究することに勤めながら、次世代域住民には「とにかく楽しい芸術祭」

等の反響の大きさから、

クトな運営費、

住民主体のボトムアップ運営

各方面から現運営体

たが、各会場の充実したアートの質、

コンパ

終了後には様々な角度から検証作業が行われ

エリアとする大型の芸術祭となった。

芸術祭

トも200名に迫り香川県の西側をほとんど

は3市2町7エリアに拡大、 2013年は2市2町5エリア、

参加アーティス

2016年

ニティーと柔軟に対応できる経験を積み、

ントを繰り返し経験しながら、

校主催の事業として、

全国展開のアートイベ かがわ・ものづくり学

地域のコミュ

ク枌所」を皮切りに、

材の育ちを見守っているところである。

2010年に開催した「アートトレッキン

としての芸術祭の本質を追求し、アーティス た。また、入場者数、経済効果などの外的な の芽生の形成を仮説として、該当するアート 現草創期の状況に近い状況の実現」を目指 た。つまり「主体と客体の間にある壁を不活 芸術祭の客体者から主体者になる試みをし きるかが一つの目安となってくる。 政、この三者がどのように相互理解、 るかどうかはアーティスト・地域住民・行 ている。この流れがこの地域において定着す 創造性の育成に寄与することは広く知られて である。 次世代人材の育成は地域作りの一つのテーマ き出し「地域力」を増すことで、 通り一遍な評価よりも、パブリックイベント プログラムをいくつか設定したことであっ 観客を含めて、芸術祭に関わった多くの人が 差問題でも、アートの果たす役割は注目され いる。グローバル化の社会の中で、広がる格 を目的としてきた。芸術文化活動を通し トと地域、この二者の活性化につなげること 「自分の地域は自分で造る」という自覚 や人の「表現することの可能性」 芸術文化活動は地域住民の個性や 表現活動を分野意識のない「表 アーティス また、 協力で



綾川町商工会女性部

戸芸、山は山芸と称されることになっていっ制の継続を強く依頼された。そして、海は瀬 2年間隔での開催を継続するかは、 ていくことに変更はないだろう。 的な連携を形成し、芸術祭の内容を充実させ 係を充実させるとともに、 行委員会の話し合いで決まっていくだろう。 せることに注力できるようになった。 により、芸術祭の様々なプログラムを充実さ 芸術祭の実行委員会で決議された。この変更 期に変更、 えて規模を縮小し、同時期1エリア制をとる べき姿に立ち返るべきとの検証結果から、 そのような意見があるということは重々承知 いずれにせよ、芸術祭に関わる人たちの、関 ことを決断するとともに、 その経緯は、 芸術祭の本来の目的や、 実行委員会としては、 2018年第3回の 3年会期を2年会 きめ細やかで有機 本来ある 今後の実

盛り上 |がる地域住民アー

いる。 がり、 チャンネルを見ると、 る。WEBコンテンツ、モノハウスアート どと日々考えているらしい。この地区の人た 住民たちが、とにかく楽しそうにアートして はアートになるのではないか」と考えたり、 ⁻あれはアートになるのではないか」「これ 「域住民のアート活動には、目を見張るもの 2016年から見受けられるようになった 展示の範囲も数も拡大、活性化してい お話を聞くと、普段の生活の中で、 「これをアートにできないか」な 回を重ねるごとに盛り上 様々なグループの地域



地域コミュニティと学生

もちろん見応えのあるものはあるが、 ちのアート活動は芸術祭期間中だけではな だ。地域の人達は、 るものは一つもない。 ないものもたくさんある。 アーティストといわれている人たちの中で、 放された。」と清々と話される。今、 は高度でなくても、「つまらない」と思わせ の人たちがつくる地域アートは、知識や技術 ティストの制作を情報として収集している。 「私は、この制作を通して解放された」と言 関係領域の専門家なので、様々なアー 日々の楽しみとしているのである。 「私は制作を通して解 そこがアートの肝なの しかし、この地域 そうで プロの

> 地域住民は、 アー ティストが背負う芸術界

山なみ芸術

外面的な充実のみに目を奪われるのではな 民・行政、この三者がどのように相互理解、 社会や価値観の中で、 協力できるかが地域振興の鍵であると述べ 思い直すべきだろう。アーティスト・地域住 中で、失ったもの、忘れたものは何か改めて ストとして長く活動してきたが、 し純粋に楽しんでいる。 の先入観やしがらみなどはない。多様化する 相互が敬意を持つ関係をいかに構築でき そのためには、 義と考えているのである。 組織や広報、 新たな楽しみをプラス 私たちは、 その過程の 資金などの アーティ



イオン展示「山なみ水族館」

える人は、どのぐらいいるのだろう。